

『ここから』 上映会、各地で

10/23 愛知、11/6 京都

「関西生コン事件」の渦中にある組合員たちの姿を描いた待望のドキュメンタリー映画『ここから 「関西生コン事件」と私たち』がこのほど完成。10月下旬から各地で上映運動がはじまった。

10月23日には「関西生コン労組つぶしの弾圧を許さない東海の会」が名古屋で、11月6日には「労働組合つぶしの弾圧を許さない京滋実行委員会」京都で上映会。業界・警察・検察が一体となった空前の労働組合つぶしに直面した組合員と家族の物語を見つめた。(写真右は京都上映会であいさつする松尾聖子さん)

今後、11月13日には護憲大会(愛媛県松山市)、同月25日は「労働組合つぶしを許さない兵庫の会」が第3回総会で、12月16日は「関西生コンを支援する会」が東京で、それぞれ上映会をひらく。



東京上映会 日時 12月16日(金)18:30~(受付18:00~)
会場 連合会館2階 大会議室

上映料金などお問い合わせは・・・

料 金 1人1200円(24頁カラーの解説パンフレット付)

上映会 最低20人以上でお願いします。

問い合わせ先 メールで関西生コンを支援する会にお願いします。

sien.kansai@gmail.com

世にも不思議な物語

鎌田慧

出来たてホヤホヤの生コンクリートを、ミキサー車で運ぶ。その仕事で3人姉妹を育てている女性運転手と仲間の泣き笑い。「関西生コン」の闘争は関西ではよく知られているが、もっと知ってほしい。この映画は名前だけは有名な運動を担ってきたひとたちの実像を通じて、日本の危険な状態がわかりやすく示されている。

労働者が権利を主張すれば恐喝、ストライキは威力業務妨害。要求は強要。まるで反社会的団体あつかいだ。そして、逮捕、長期勾留。戦前の暗黒時代が、いま関西からはじまっている。それは特高刑事が活躍し、裁判官が人権無視した時代への逆行である。警察も、検事も、裁判官も、労働運動の歴史に無知だ。労働者の権利を粗末にする。それが民主主義を破壊している、との自覚がない。

それでも登場する松尾聖子さんや吉田修さんたち、生コン労働者の表情は明るい。なぜなら明日を信じているからだ。全国の仲間の連帯を信じているからだ。この映画をみて、勇気をだして自分の職場で闘って下さい。

いま、時代は逆行しています。労働運動がなくなったら、民主主義は墓場です。